

令和3年度 予算施策評価表

様式1

施策名	高規格幹線道路等の整備				予算施策コード	db09	
担当部局名	土木部	道路都市局	道路建設課	評価責任者	課長 平松 彰彦	連絡先	4411

1 施策の内容

施策の目標	主要都市間の交流・連携促進及び空港等へのアクセス強化のため高規格幹線道路等の整備を促進し、広域高速交通ネットワークを早期に形成するとともに、高速道路における暫定2車線区間における死亡事故や渋滞解消のための4車線化を図り、県民の日常生活における安全性・利便性、信頼性の向上や快適な生活環境を確保する。
これまでの取組み	<p>高規格幹線道路等のネットワーク整備は、地域間の交流・連携強化など極めて重要な役割を担うものであり、本県では、西瀬戸自動車道が平成11年5月にルートを構成する全橋が開通、四国縦貫自動車道は、平成12年7月に徳島県境から大洲IC間の全線が開通しており、また、四国横断自動車道は、香川県境～川之江JCT～高知県境が開通、平成24年3月の宇和島北IC～西予宇和IC間の開通、自動車専用道路である宇和島道路(宇和島北IC～津島岩松IC間)が平成27年3月に全線開通した。さらに、津島道路10.3kmが平成24年度に事業化され、用地買収、本線工事等が進められているほか、内海～宿毛間が平成30年度に計画段階評価が完了し、令和元年度から都市計画・環境アセスメントを進めるための調査が進められるなど、事業の進捗が図られている。</p> <p>一方、高規格幹線道路を補完し、広域的な交流・連携の促進や空港等へのアクセス機能強化を担う地域高規格道路についても、大洲・八幡浜自動車道の名坂道路が平成24年度に開通、八幡浜道路が平成17年度に、また、夜昼道路が平成25年度に、大洲西道路が平成29年度に事業化するなど、広域高速交通ネットワークが形成されつつある。また、松山外環状道路については、平成28年12月にインター線が全線開通したほか、平成29年9月に国道56号と県道伊予松山港線間において側道が開通した。</p> <p>なお、松山IC～大洲IC間の暫定2車線区間(約40km)の4車線化は、令和2年3月に新たに「伊予IC～内子五十崎IC」間のうち約9.7kmの付加車線設置が発表され、これまでの6.3km区間、約4.4km区間と併せると約20kmが事業化された。</p>

成果指標名(目標の達成度合いを示す指標)

A	高規格幹線道路等の供用延長				B	松山IC～大洲北只ICにおける4車線化の整備率					
選択理由	高規格幹線道路及び地域高規格道路の供用延長が延伸されることにより、県民があまねく高規格幹線道路等を利用して、広域的に交流・連携を促進することが可能となる。				選択理由	暫定2車線区間において対向車線への逸脱による死亡事故や行楽期等における渋滞解消、さらには南海トラフ地震や万が一の原発事故時等の対応として、4車線化により、高速道路の安全性・信頼性を向上させることが可能。					
算定方法	高規格幹線道路等(自動車専用道路を含む)の供用延長+地域高規格道路の供用延長				算定方法	松山ICから大洲北只IC間における全路線延長のうち、4車線化された路線延長の割合					
成果と指標の関係	強	指標の種類(ストック/フロー)	ストック	指標の種類(プラス/マイナス)	+	成果と指標の関係	強	指標の種類(ストック/フロー)	ストック	指標の種類(プラス/マイナス)	+

指標・事業費・人件費の推移

区分	成果指標A			成果指標B			事業費(予算)				事業費(決算)	人件費
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	予算計	国費	その他	県費		
単位	km			%			千円					
元年度	262	262	100.0%	18	18	100.0%	3,306,481	1,701,475	4,932	1,600,074		42,879
2年度	262	262	100.0%	18	18	100.0%	3,332,513	1,707,048	4,497	1,620,968	3,331,632	50,746
3年度	262	262	100.0%	18	18	100.0%	4,789,937	2,507,735	5,280	2,276,922	4,788,833	44,165
4年度 目標値	266			18			4年度当初予算					
最終目標	339			100			5,167,920	2,776,555	4,610	2,386,755		

2 施策の評価

県の関与の必要性		説明	高規格幹線道路は、社会・経済活動を支える根幹的な基盤施設であり、産業振興・地域の活性化に重要な役割を担うとともに、住民の安全・安心の暮らしに欠くことの出来ない救急医療や災害時における緊急輸送機能、広域相互支援体制の確立など、多様な効果をもたらすものである。また、地域高規格道路は、高規格幹線道路を補完し、広域的な交流・連携の促進や空港・港湾など交通拠点へのアクセス強化を担うものであり、県が積極的に関与し、早期整備を図る必要がある。			
高い						
成果指標A		説明	四国横断自動車道の宇和島北IC～西予宇和IC間が平成24年3月に、また、地域高規格道路である「大洲・八幡浜自動車道」名坂道路も平成25年3月に開通し、さらに、平成27年3月には宇和島市津島町岩松から高田の間の3.5kmが完成し、「宇和島道路」が全線開通となった。また、地域高規格道路である「松山外環状道路」のインター線が平成28年12月に全線開通したことから、平成30年度末現在の県内の高規格幹線道路等の整備延長は262kmとなった。県内の四国縦断・横断自動車道で、唯一、未着手であった「内海～宿毛」間は、平成4年度に宿毛内海道路「宿毛新港～一本松」、「御荘～内海」間が新規事業化され、全線開通に向け大きく前進した。また、「大洲・八幡浜自動車道」の八幡浜道路、夜昼道路については、工事を鋭意進めており、大洲西道路は平成29年度に新規事業採択されるなど、全線開通の見通しが立った。			
成果動向	順調・向上					
成果向上余地	成果向上が可能					
成果指標B		説明	松山自動車道における川内ICから松山IC間の4車線化が平成15年に完成して以来、高速道路の南予延伸を最優先に取り組んでいたが、大洲・八幡浜自動車の整備推進に合わせ、新たな国土軸の機能強化を図るため、松山ICから大洲北只ICまでの4車線化を促進する期成同盟会が、関係市町により平成28年2月に設立された。 その成果として、平成28年6月に伊予市の明神山トンネルを含む6.3km間が付加車線設置検証路線に選定され、平成30年4月には着工式が開催された。また、令和元年度には防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策の一環として「内子五十崎IC～大洲IC」間のうち約4.4kmが、令和2年度には渋滞対策を目的として「伊予IC～内子五十崎IC」間のうち約9.7kmが事業化された。			
成果動向	順調・向上					
成果向上余地	成果向上が可能					
参考：構成事務事業の評価の平均値	成果動向	2.33	順調・向上	成果向上余地	1.33	成果向上が可能

今後予測される環境変化	大規模災害に備える救援活動や物資輸送等に大きな役割を担う「四国8の字ネットワーク」の早期整備が急務となっているものの、道路や河川などの社会インフラの老朽化が急速に進行し、今後膨大な維持管理費用が必要となるなど、社会資本整備を取り巻く環境はより厳しさを増している。今後、整備に必要な財源の確保が懸念されるなか、四国8の字ネットワークの形成に向けた高速道路の南予延伸等、県内の高規格幹線道路等の整備の進捗に大きく影響を及ぼすことから、国の動きに注視する必要がある。
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 施策の今後の方向性

<p>本県道路網の骨格を成す高規格幹線道路及び地域高規格道路は、県土の均衡ある発展に寄与することはもとより、近年全国各地で大規模災害が頻発・激甚化している中、被災地への救援や緊急物資の輸送など重要な役割を果たしており、切迫する南海トラフ地震等に備える「命の道」として根幹的な社会基盤施設であり、高速道路ネットワークを完成させることが最大の効果を発揮すると考えられる。また、産業振興や地域の活性化に重要な役割を担うとともに、文化・医療・生活・福祉などあらゆる面で、県民生活の向上に貢献するなど、早期整備が必要不可欠であることから、「重要施策の推進に関する提案・要望」の最重点項目に位置付けているところであり、財源について優先して配分するなど、1日も早い整備を行っていく必要がある。</p> <p>これらの高速道路ネットワークの早期完成を図り、県内の基幹道路網や県外との広域交通ネットワークとの接続を推進し、広域的な交流・連携の一層の促進を図る。</p>

4-1 事務事業管理シート（評価対象事業）

										予算施策名					db09 高規格幹線道路等の整備				
1	地域高規格道路大洲・八幡浜自動車道整備事業費			指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
指標種類1	指標名称1			単位	計画	5	5	5	12	16	事業費計	3,336,854	3,325,916	4,781,985	5,161,223	評価	4工区のうち「名坂道路」が平成25年3月17日に供用開始し、成果が向上した。続く「八幡浜道路」は令和4年度、「夜昼道路」は早期供用を目指し、橋梁工事、道路改良工事等の進捗を図り、「大洲西道路」については、調査測量、設計検討を進めているところ。		
成果	+	ストック	九州からの海の玄関口と四国横断自動車道を結ぶ快速走行度	分	実績	5	5	5	予算	国費	1,721,275	1,707,048	2,507,735	2,776,555					
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%		その他									
指標種類2	指標名称2			単位	計画	61	67	73	74	100	事業費計	1,615,579	1,618,868	2,274,250	2,384,668				
成果	+	ストック	工事進捗率	%	実績	61	67	73			国費	1,701,727	1,707,048	2,507,735	見直し 方向性	方向1 このまま継続 方向2 方向3			
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%			その他								
指標種類3	指標名称3			単位	計画	2.3	2.3	2.3	6.1	14	事業費計	3,298,959	3,325,916	4,781,985					
活動	+	ストック	供用延長	km	実績	2.3	2.3	2.3			国費	1,597,232	1,618,868	2,274,250					
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%			県費	1,615,579	1,618,868	2,274,250					
実施期間	初期	終期	事業の概要							人役	5.7	6.5	6.6						
H9			本道路は、四国縦貫・横断自動車道と連結することによって、九州～四国～京阪神の広域交通ネットワークを形成し、地場産業の振興や地域の活性化を図るほか、原発事故時には広域避難・救援道路の軸となることから地域高規格道路として整備を行うもの。							人件費	38,795	43,979	39,930						
2	しまなみ海道自転車道利用促進事業費			指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	4その他	
指標種類1	指標名称1			単位	計画	6	6	6	6		事業費計	6,751	5,820	7,188	5,933	評価	令和2、3年度のレンタサイクルの利用台数については、新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に減少した。		
成果	+	70-	しまなみ海道の自転車通行料金無料化が実現した箇所数	箇所	実績	6	6	6	予算	国費									
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%		その他	4,932	4,497	5,280	4,610					
指標種類2	指標名称2			単位	計画	100	100	100	100		事業費計	6,680	5,221	6,291					
活動	+	70-	レンタサイクル利用台数	千台	実績	149	75	71			国費	1,819	1,323	1,908	1,323	見直し 方向性	方向1 このまま継続 方向2 方向3		
					達成率	149.00%	75.00%	71.00%			その他								
指標種類3	指標名称3			単位	計画						事業費計	6,680	5,221	6,291					
					実績						国費	4,932	3,898	4,555					
					達成率	-	-	-			県費	1,748	1,323	1,736					
実施期間	初期	終期	事業の概要							人役	0.5	0.7	0.3						
H26			しまなみ海道自転車道の通行料金無料化を継続するとともに、修学旅行へのレンタサイクル代補助等、利用促進に向けた事業を実施する。							人件費	3,403	4,737	1,815						
3	本州四国連絡道路利用促進費			指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	4その他	
指標種類1	指標名称1			単位	計画	40	40	40	40		事業費計	771	777	764	764	評価			
成果	+	70-	本州四国連絡道路の通行料金のH25年度までの基本料金に対する割引率	%	実績	40	40	40	予算	国費									
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%		その他									
指標種類2	指標名称2			単位	計画	10	10	10	10		事業費計	771	777	764	764				
成果	+	70-	特別割引料金利用者数	人	実績	7	4	4			国費					見直し 方向性	方向1 このまま継続 方向2 方向3		
					達成率	70.00%	40.00%	40.00%			その他								
指標種類3	指標名称3			単位	計画	16	16	16	16		事業費計	473	495	557					
活動	+	70-	会議開催回数	回	実績	16	16	16			国費	473	495	557					
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%			県費	473	495	557					
実施期間	初期	終期	事業の概要							人役	0.1	0.3	0.4						
S45			西瀬戸自動車道の中で一般車両が通行できるインターチェンジが設置されていない馬島島民の来島海峡大橋通行料を支援する事業。							人件費	681	2,030	2,420						